

鉛のリサイクル事業

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉛の再生精錬並びに加工販売 ● 産業廃棄物処分業（廃鉛バッテリー） ● 非鉄金属並びに貴金属の売買
2023年度の振り返り	● 鉛のLME価格がやや値下がりしたが、円安ドル高により鉛の販売価格は好調に推移した
基本戦略	● 地球環境の保全のため、鉛リサイクル事業をはじめ、全ての企業活動を通じて、汚染防止、環境負荷の低減、リサイクル率の向上に取り組む。鉛二次精錬業のトップ企業として高品質の製品を市場に提供し、かつ環境保全を両立させ、社会に貢献する
市場環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後も円安ドル高が継続すれば売上には追い風となる ● 鉛の販売先から当社のカーボンニュートラルの取り組みが高く評価され売上にも好影響が出始めている

	プラス要因	マイナス要因
内部要因	<p>Strength (強み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃鉛バッテリーの回収-処理がグループ内で完結するワンストップサービスを提供 ● 競合他社に先んじたリサイクル処理工程による環境負荷低減対策・CO₂排出量削減対策の実施 ● 2024年度より廃鉛バッテリー回収時の自社トラックのCO₂排出をJ-クレジットを利用しオフセット 	<p>Weakness (弱み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材確保と教育に改善の余地 ● 日本で唯一のプラントのため、独自でノウハウを蓄積しなければいけない ● 既に生産設備をフル稼働して生産を行っているため、増産する場合は設備増強が必要
	<p>Opportunity (機会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 販売先からのリサイクル部材購入強化の動き ● 取引先からCO₂削減の要望の高まり ● 世の中の廃鉛バッテリーの違法解体・輸出に対する排他的な動き 	<p>Threat (脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現状では増量オファーがあるが、将来的には鉛市場は縮小する傾向 ● CO₂排出削減対策に伴うコスト増のため、原料調達時に他社に単価負けする可能性がある ● 違法解体業者・違法輸出業者による原料争奪戦の動き
外部要因		

今後の成長戦略 ● 熔解炉については、LNGを使用する還元炉プラントを日本で最初に導入、精錬炉については世界で初めて電気を使用する誘導加熱精製炉を設置、世界の鉛精錬会社と比べてもCO₂削減では最先端の設備であると自負。2030年カーボンニュートラルの実現を目指してGXを着実に推進する。